

「部落差別をなくする運動」 強調旬間事業

入場
無料

とき 平成 **22** 年 **7** 月 **9** 日(金)
開演 **19:00** (開場 **18:30**)

ところ **のいちふれあいセンター**

- 人権作文発表
- 講演



講師 **栗原美和子**さん
(フジテレビ・プロデューサー)

演題 **差別のない社会をめざして
～太郎が恋をする
頃までには…～**

主催：香南市・香南市教育委員会・香南市人権教育研究協議会
共催：安芸・香美地域人権ネットワーク協議会

問い合わせ：香南市人権課 ☎ 57-8507
香南市教育委員会生涯学習課 ☎ 57-7523

■無料送迎バス あります
■託児コーナー

ふれあいセンターは、駐車場
が少ないため無料送迎バス
のご利用をお願いします。

無料送迎バス時刻表

■ 行き ■	
1号車	夜須支所 18:20 香我美駅 18:30 赤岡支所 18:35
2号車	香我美支所 18:30 みどり野中央公園 18:40
3号車	赤岡市民館 18:30
4号車	吉川支所 18:30

■ 帰り ■
ふれあいセンター各便 21:10



昭和50年に旧吉川村議会議員に当選以来、平成18年3月の町村合併で勇退するまでの8期29年余の間、各常任委員会委員長、議長、また、各事務組合の議員を歴任し、村政および広域行政の各部門に貢献されました。さらに、社会福祉法人香南会の理事として、高齢者や社会的弱者に温かい手を差し伸べ、福祉の発展に寄与されました。

初当選したのは37歳。「収賄は言語道断。なにより人を大事にせよ」この言葉は、当時一番若かった山本さんが、先輩たちから学び、肝に銘じてきた言葉です。村長と幾度となく意見をぶつけ合い、住民の声を村政へ届ける原動力ともなりました。「議員生活を全うできたのは、家族や地域の方々の支えがあったからこそ」と感謝する山本さん。昨年3月に脳梗塞を患い、現在は週に2回のリハビリに汗を流しています。

「百姓をして子ども2人を育ててきました。歩ける体に戻ったら、田んぼへ出てきれいな空気を吸いたい」とにこやかに話されていました。

旭日双光章 地方自治功労

山本 清二 さん
72歳 吉川町



瑞宝双光章 消防功労



西岡 正弘 さん
70歳 赤岡町

昭和36年に赤岡町消防団に入団して以来40年の長きにわたり、消防使命の達成のため地域住民の安全と消防の発展に尽力されました。また、団長を務められた平成9年10月からの4年間は、町内で火災は一件も発生せず、日夜、火災予防活動や防災意識の高揚に努められました。

「消防団員は常に消火栓や防火水槽はもちろんのこと、お年寄りや体の不自由な人がどこに住んでいるのか頭はないといかん」と熱く語る西岡さん。在団中には繁藤災害を経験し、その悲惨さに人命の尊さと防災の重要性を思い知ったそうです。「屯所へ行くよりもまずは現場へ」がモットー。誰よりもいち早く駆けつけるなど、使命と責任をもって消防団生活を全うされました。「今回の受章は多くの仲間や家族の支えがあってこそ」と40年を振り返り、周りへの感謝を噛み締めています。

現在は毎朝、健康維持のために自転車に乗りながら、まちの安全を見守り続けています。

瑞宝双光章 行政相談功労



筒井 作郎 さん
77歳 野市町

平成2年に総務庁長官から行政相談委員を委嘱されて以来、20年余にわたりボランティアで、行政全般に対する苦情や相談事案の解決に努められました。また、行政相談制度の普及、行政運営の改善に寄与され、現在も市民の皆さんの身近な相談相手として、その解決に尽力されています。

今回の受章に「改めて身の引き締まる思い」という筒井さんは、吾北村(現いの町)のご出身です。県庁に就職し、東京事務所在職時代のご縁で結婚された奥さまの出身地、野市町へ。退職を機に、現役時は夜間人口でしかなかったこの町への恩返しにと、引き受けた相談委員でしたが、最近は行政相談のみならず、心配事相談を受けることもあるそうです。そんな中、問題を解決に導き、人とのつながりを大事にできた喜びは大きいという筒井さん。

2階の自室は趣味の郷土史を紐解く根城。増え続けた書物の重みで階下の天井が落ちそうになったというエピソードにも、何事にも努力を惜しまない性分がうかがえました。

春 の 叙 勲

4月29日付、各分野で優れた功績を残した春の叙勲受章者が発表されました。香南市では山本清二さん(吉川町)が旭日双光章を、筒井作郎さん(野市町)と西岡正弘さん(赤岡町)が瑞宝双光章の受章に輝きました。